

火災便覧第4版正誤表 (2019.3.22)

頁	訂正箇所	誤	正	備考
82	21行	幅射	輻射	
131	9行	正津	摩擦	
209	図4.29の横軸	$s_0$	$z_0$	
263	下から7行	E.のd. 参照	4.3.6(1)E.のd. 参照	
327	下から2行	短くなる	短くなる	
328	7行	機遇	遭遇	
331	17行	行動範囲が大きく	行動範囲が広く	
350	3行	平成11年	1999 (平成11) 年	
363	下から15行	ショーターら	Shorterら	
380	21行	60%と超	60%超	
393	62)	日本建築センター	日本建築センター (1993)	
412	2行	g/m	$g/m^3$	
451	16行	7.22	7.28	
495	図8.7	調査対象地域と地震火災の空間分布 (N=398)	調査対象地域と地震火災の空間分布 (N=398) (●津波火災, ○揺れによる火災, ●間接的に生じた火災)	
502	5行	この火災では	1956年の能代市大火では	
515	23行	室崎	室崎	
517	4行	設定されている.	設定されている (表8.9) .	
524	式8.17	$p$	$\bar{p}$	
558	24行	9 m	9 m/s	
558	24行	10 m	10 m/s	
565	3行	感覚	間隔	
568	図8.47	図8.47 身近な. . . イメージ	図8.47 身近な. . . イメージ <sup>15)</sup>	
594	下から7行	1956	(1956)	
605	下から6行	消化	消火	
632	4行	が行なわれている.	が行なわれている (図9.12~9.14) .	
632	下から1行	図9.16	図9.15	

頁	訂正箇所	誤	正	備考
633	5行	図9.17	図9.16	
727	下から10行	時閾	時間	
736	23行	型スプリンクラー設備	型スプリンクラー設備」	
761	20行	仕様	使用	
841	図13.1	渣の類似語	渣	
842	図13.4	渣の類似語	渣	
843	表13.2	けい素	ケイ素	
862	図13.22	レボグルコーザン	レボグルコサン	
863	図13.24	渣の類似語	渣	
909	下から6行	表13.46	表13.49	
1021	下から7行	Volz	Vol.	
1324	下から13行	$R_A^D$	$R_a^D$	
1349	図19.17	潜在危険	危険源	
1351	10行	じる被害規模.	じる被害規模の二つから判定される.	
1353	24行	労働省	旧労働省	
1354	1行	労働省	旧労働省	
1354	10行	火災など,	2017年に12日間燃え続けた物流倉庫の火災など,	
1359	20・1・1, 1行	制御	抑制	
1360	3行, 4行, 5行	方向	方法	
1360	下から5行	確立	確率	
1362	表20.1	/sm, /sm <sup>2</sup> , /sm <sup>3</sup>	/s・m, /s・m <sup>2</sup> , /s・m <sup>3</sup>	
1363	13行	微分方程式とに	微分方程式に	
1371	図20・9 1行	遷移確率	遷移確率	
1375	4行	流速度	質量流量	
1375	8行	発熱量	発熱速度	
1375	8行	実際の火源	実際の火災プルームを生成する火源	
1379	下から4行	方程式系である.	方程式系（前式は運動量の保存式, 後式は質量の保存式）である.	

頁	訂正箇所	誤	正	備考
1379	下から5行	$\frac{\partial \mu_i}{\partial t} + \frac{\partial \mu_i \mu_j}{\partial x_j} = -\frac{\partial p}{\partial x_i} + \frac{\partial}{\partial x_j} \nu \left( \frac{\partial \mu_i}{\partial x_j} + \frac{\partial \mu_j}{\partial x_i} \right) \frac{\partial \mu_i}{\partial x_i} = 0$	$\frac{\partial \mu_i}{\partial t} + \frac{\partial \mu_i \mu_j}{\partial x_j} = -\frac{\partial p}{\partial x_i} + \frac{\partial}{\partial x_j} \nu \left( \frac{\partial \mu_i}{\partial x_j} + \frac{\partial \mu_j}{\partial x_i} \right) \frac{\partial \mu_i}{\partial x_i} = 0$ ↑ ,	
1380	下から8行	ブジネスク近似	ブシネスク近似	
1383	1行	偏微分方程式系. . . である. 差	1行の文章を削除	
1384	下から11行	滞留性状が	滞留性状を	
1386	14行	取り入れた入れた	取り入れた	
1388	下から4行	(1)新・建築防災計画指針の避難計算	(1)新・建築防災計画指針の避難計算 <sup>3)</sup>	
1389	12行	単位長さ	単位幅	
1389	下から6行	階段へ	階段または外部へ	
1390	下から4行	差は, 廊下を	差は, 出口d <sub>4</sub> の前で待っている, あるいは	
1391	2-3行	収容しきれぬ	収容可能である	
1391	8行	(2)避難安全検証法	(2)避難安全検証法 <sup>4)</sup>	
1391	式(20・42)	$t_e$	$t_{escape}$	
1392	式(20・46)	$A_\infty$	$A_{CO}$	適用範囲の数式2つとも
1392	式(20・46)	A	$A_{load}$	適用範囲の数式2つとも
1392	5行と6行の間	(追加)	$t_{start}$ : 避難開始時間 [分]	
1392	下から9行	こができない	ことができない	
1392	図20・16	$p_1 A_1 + p_2 A_2 + p_3 A_3$	$p_1 A_1 + p_2 A_2 + p_3 A_3,$	最後のカンマが抜け
1392	図20.16	有効流動係数の算定式にあらわれる変数 <sup>2)</sup>	有効流動係数の算定式にあらわれる変数 <sup>4)</sup>	
1394	図20・19	階段周りの合流性状	階段周りの合流と滞留の様子	
1396	4)	糸井川栄一: 東京工業大学学位論文(1990)	糸井川栄一: 市街地における出火・延焼危険評価手法に関する基礎的研究, 東京工業大学学位論文(1990)	
1398	19)	pp 823-826	pp. 823-826	
1399	31)			参考文献3)と重複
1403	下から10行, 温度の中列	0K=273.15°C = 459.67° F	0K=-273.15°C = -459.67° F	

頁	訂正箇所	誤	正	備考
1407	文政12, 1829	諸侯	諸侯	
1408	嘉永3, 1850	諸侯	諸侯	
1415	昭和58, 1983	マヤハリクエーションセンター	ヤマハレクリエーションセンター	
1415	昭和59, 1984	抗内	坑内	
1416	昭和63, 1988	プリアムーリ工場	プリアムーリエ号	
1416	平成2, 1990	) ブ	) で	
1419	平成20, 2008	(C19マグニチュード	(マグニチュード	
1434- 1435	(124)静養ホーム たまゆらの出火原因	放火	不明	
1456	右列中、*16	72.6 千日デパートビル 73.8 火災	72.5 千日デパートビル火災	
1501	下から4行	<化学物質SD	<化学物質SDS	
そのほか				
	JIS	日本工業規格	日本産業規格	2018年7月1日より法令 改正により名称変更